

【⑪漁港浄化施設】

漁港浄化施設整備による代表的な便益項目を以下に示す。

評価項目			ページ (2-⑪-)
1. 水産物生産コストの削減効果	(2) 経費削減効果	<87>低温清浄水導入施設の整備による鮮度保持用水購入コストの削減	2
2. 漁獲機会の増大効果	—	—	
3. 漁獲可能資源の維持・培養効果	—	—	
4. 漁獲物付加価値化の効果	—	—	
5. 漁業就業者の労働環境改善効果	—	—	
6. 生活環境の改善効果	—	—	
7. 漁業外産業への効果	—	—	
8. 生命・財産保全・防御効果	—	—	
9. 避難・救助・災害対策効果	—	—	
10. 自然環境保全・修復効果			
11. 景観改善効果	—	—	
12. 地域文化保全・継承効果	—	—	
13. 施設利用者の利便性向上効果	—	—	
14. その他	—	—	

<87> 低温清浄水導入施設の整備による鮮度保持用水購入コストの削減 (算定事例：A 地区)

1 水産物生産コストの削減効果

(2) 経費削減効果

②漁港関係

①-4. 各種機能施設整備に伴う経費の削減

【整備前における課題】

- ・ A 地区では、低温海水の入手が難しく、鮮度保持用の氷が大量に必要であった。

【施設整備により期待される効果】

- ・ 低温清浄水導入施設の整備により、低温海水の入手が可能となることから、氷購入費用が削減される。



水産流通基盤整備事業 A 地区 事業概要図(便益算定対象施設を黄で着色)

便益発現時の対象

日時	—
場所	—
作業	—
人・物	低温清浄海水
効果	低温海水の入手
便益	氷購入費用の削減

<便益算定式>

$$\text{年間便益額} = \text{年間氷購入コスト [整備前]} - \text{年間氷購入コスト [整備後]}$$

<便益算定例>

$$\text{年間便益額} = \text{【整備前氷購入コスト】} - \text{【整備後氷購入コスト】} - \text{維持管理費}$$

$$\text{【整備前氷購入コスト】} = \text{サケ陸揚量} \times \text{陸揚量 1t 当り氷使用量 [整備前]} \times \text{氷単価}$$

$$\text{【整備後氷購入コスト】} = \text{サケ陸揚量} \times \text{陸揚量 1t 当り氷使用量 [整備後]} \times \text{氷単価}$$

区分		備考
サケ陸揚量(t/年) ①	17,174	港勢調査 (H23~H25 3ヵ年平均値)
陸揚量 1t 当り氷使用量		調査日:平成27年9月30日
[整備前] (トン/t) ②	0.27	調査対象者:漁業協同組合職員 町職員
[整備後] (トン/t) ③	0.09	
氷単価(円/トン) ④	12,504	調査実施者:職員 調査実施方法:ヒアリング調査
年間氷使用量		
[整備前] (トン/年) ⑤	4,637	①×②
[整備後] (トン/年) ⑥	1,546	①×③
氷購入コスト		
[整備前] (円/年) ⑦	57,981,048	④×⑤
[整備後] (円/年) ⑧	19,331,184	④×⑥
年間便益額(千円/年)	38,650	(⑦-⑧)/1000

A 地区水産流通基盤整備事業の効用に関する説明資料

**留意点**

①本便益の考え方について

- ・ 本便益は、低温海水の使用による漁獲物の鮮度保持のための氷の量の削減である。
- ・ 本便益は、低温海水の使用により氷の使用量が減少した漁獲物を対象とする。
- ・ 低温海水を使用しない漁獲物や氷を使用しない漁獲物、整備前後における氷使用量に変化がない漁獲物は便益対象外である。

②「氷使用量」「氷購入コスト」について

- ・ 「氷使用量」「氷購入コスト」は当該地区における実績をヒアリングして設定することができる。
- ・ 過去の陸揚量と氷購入量・金額実績を整理し、複数年の平均を用いることが望ましい。

